

令和2年度 ACTR

分類 番号	A1	取組 名称	丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 諫早 直人
研究担当者：			
京都府立大学（菱田哲郎、小林啓治、奥谷三穂（敬称略）） 外部分担者・協力者（金宇大氏、栗山雅夫氏、新谷勝行氏、河森一浩氏、稲穂将士氏、坪倉良夫氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京丹後市教育委員会、宮津市教育委員会、京都府立丹後郷土資料館、丹後ひくやま会			
【研究活動の要約】			
本研究は学（大学）・公（地方自治体）・民（地域住民）が連携して、古墳と山寺・行場跡を中心とする丹後半島の文化遺産の学術的価値を掘り起こし、丹後半島の歴史的特性を把握し、それらを「地域資源」として活用することを通じて、地域の人々が文化遺産を通じて「地域らしさ」を感じ、その魅力を発信する仕組みを創出することを目的としています。今年度は、京丹後市久美浜町にある湯舟坂2号墳やその出土品に対する再調査と、宮津市から京丹後市にかけての山中に点在する近世以前の山寺・行場跡の可能性のある地点の踏査、宮津市上世屋地区慈眼寺所蔵資料の調査を、地元の教育委員会や京都府立丹後郷土資料館、地域団体と共同で実施しました。			
【研究活動の成果】			
京丹後市教育委員会、京都府立丹後郷土資料館と共同で、国の重要文化財に指定されている湯舟坂2号墳出土品に対して、発掘以来40年ぶりとなる本格的な再調査をおこないました。普段は京都府立丹後郷土資料館の収蔵庫で保管されている出土品と現地に残されている古墳・石室に対して、40年前には成しえなかった最新の調査技術を駆使してデジタル高精細写真の撮影や、三次元計測などの科学的調査を実施し、丹後を代表する後期古墳である湯舟坂2号墳を、地域の人々の心の拠りどころとなる「地域資源」として一層活用していくためのコンテンツの確保に努めました。 2年目以降も山寺・行場跡の調査と合わせて文化遺産活用の前提となる基礎的な学術的価値の掘り起こし作業を続けていくとともに、京都府立丹後郷土資料館や京丹後市立丹後古代の里資料館での展示、地元での成果報告会などを通じて、得られた研究成果を積極的に地域に還元していく予定です。			
【研究成果の還元】			
R2.11.22 宮津市上世屋世谷高原休憩所 *関係者・地元住民約15名 「慈眼寺資料説明会」			
R3.1.23 京丹後市久美浜庁舎会議室 京都府立大学 ACTR 成果報告会 in 久美浜「地域資源としての湯舟坂2号墳」 *新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い延期			
R3.2.20-4.4 京都府立丹後郷土資料館企画展「ふるさとミュージアムコレクション」			
R3.3.25-4.28 歴彩館京都学ラウンジパネル展「府大歴史学科∞歴彩館 コラボで探る京都学（4）」『地域資源としての湯舟坂2号墳』（京都府立大学文学部考古学研究室）、『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第7号（京都府立大学文学部歴史学科）（いずれも府大図書館で閲覧可）			
【お問い合わせ先】 文学部 歴史学科 准教授 諫早 直人 Tel: 075-703-5274 E-mail: isahaya@kpu.ac.jp			

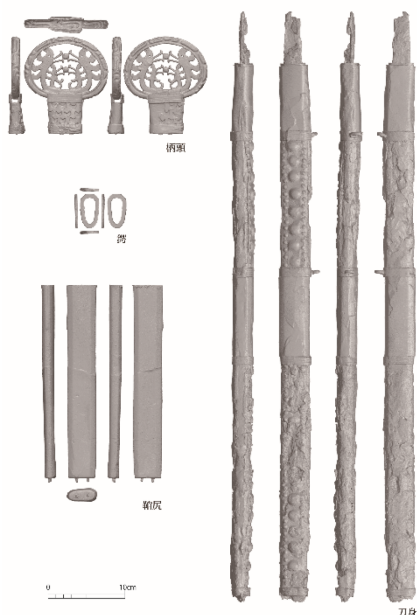
参考（イメージ図、活動写真等）



湯舟坂2号墳出土品調査風景（2020年9月）

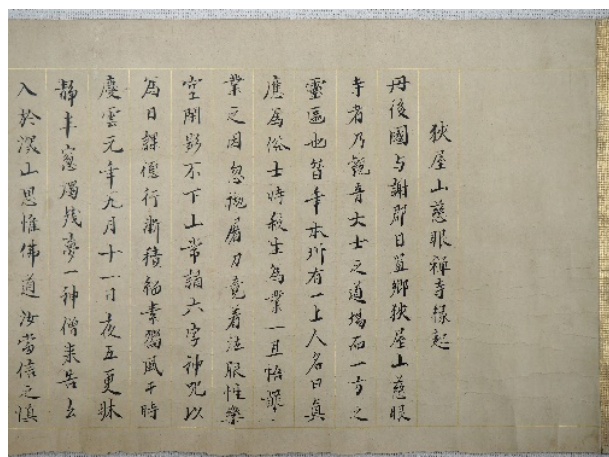


湯舟坂2号墳石室撮影風景（2020年11月）



（左）湯舟坂2号墳金銅装双龍環頭大刀の三次元計測画像

（右）新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、2021年5月に延期となった湯舟坂2号墳成果報告会の幻のポスター。本ACTRで再撮影した写真をもとに、京丹後市久美浜町須田区在住のデザイナーと共同で作成した



慈眼寺所蔵資料（狹屋山慈眼禪寺縁起）



京丹後市味土野地区踏査風景（2021年3月）